

四谷姉妹が考える憲法9条をいかにした安保3文書（安全保障政策）

四谷姉妹

1 近寄りたがたい憲法だけど……

憲法漫才でブレイク中の四谷姉妹です。新宿区四谷にある東京法律事務所の弁護士2人が、「阿佐ヶ谷姉妹」ならぬ「四谷姉妹」の名前で憲法漫才を披露したあとに「安保3文書」や「平和とジェンダー」などのテーマで学習会をしています。

この1年間で公演依頼は現時点で50回以上、それぞれが1人で憲法カフェなどに呼ばれることも含めると毎週のように講演していることになりました。

四谷姉妹講演の参加者の感想としては、「憲法」というと難しい近寄りたがたいイメージがあったが、四谷姉妹ということで初めて参加した」「とてもわかりやすく、かたくなりがちな憲法の話があつというまに終わってしまうほど集中できた」「分かりやすく憲法について学ぶことができよかつた」「こういう楽しい内容なら友達を誘いたい」など好評です。

2 平和の対案「四谷姉妹が考える安全保障政策」にも反響が

講演のテーマが平和の場合、必ず「四谷姉妹の安保3文書」を紹介します。昨年閣議決定した岸田首相の「安保3文書」に対抗した

私たちが考える安全保障政策です。これにも大きな反響があります（下図参照）。

（1）日本の人々の生活の安全安心を守る

まず、「国家安全保障戦略」では、日本にいる人々の現在の生活を保障する戦略です。アメリカの戦争に巻き込まれ日本が戦場になりかねない「安保3文書」は真の国家安全保障にはなりません。

際限のない軍拡を招く抑止力によるのではなく、平和外交でこそ日本の安全が守れます。日本は、食料自給率38%、エネルギー自給率約11%と戦争などにより貿易が制限されればたちまち生活が立ち行かなくなってしまう。日本の食料・エネルギー自給率をアップするため農業や自然再生エネルギーを振興します。また原発は地震などの災害時や戦争になれば、福島を繰り返すことになります。原発稼働延長ではなく、廃炉こそが国の安全のために急務です。そして、核兵器禁止条約を批准して非核3原則を堅持することこそが、日本の安全を守るのです。

四谷姉妹が考える安保3文書(安全保障政策)

「国家安全保障戦略」 (日本にいる人々の生活を保障)

- 平和外交で日本の安全を守る
- 食料・エネルギー自給率100%にするために農業・自然再生エネルギーの振興。
- 自然災害への備えを万全にする。
- 原発廃炉
- 核兵器禁止条約批准、非核3原則厳守

「国家防衛戦略」 (攻撃したくない国を目指す)

- アニメ・音楽・自然・日本文化等の積極的な発信
- 教育の充実、科学技術振興を図り、世界の貧困・温暖化対策技術を無償で提供
- 核兵器廃止・軍縮の先頭につ

「防衛力整備計画」 (軍事費削って福祉・教育へ)

- 共同軍事演習の即時中止
- 最強の防衛は世界の軍縮・非核化
- ジェンダー平等のための予算を抜本的増額
- 四谷姉妹を「9条大使」にして、日本の憲法9条を世界に広げる

(2) 攻撃したくない国になる

また「国家防衛戦略」では、「攻撃したくない国」を目指します。世界中の人々から愛されているアニメや日本の文化・自然を積極的に発信します。日本を攻撃したら今大人気の「スラムダンク」や「ワン・ピース」その他の映画の続編は見られなくなるのはイヤと思ってもらいたい。

また世界が抱えている貧困や地球温暖化問題は深刻です。こうした問題を解決する技術などを無償で日本が提供して国際貢献すれば、日本を攻撃するなんて世界じゅうが困ってしまうと思うでしょう。また唯一の被爆国として核兵器廃絶と軍縮の日本がその先頭になつ、世界から尊敬される国になることが、攻撃されない国造りになるのではないのでしょうか。

(3) 軍事費削って、福祉・教育・平等のための予算を

そのための「防衛力整備計画」では、軍事費を大幅に削って、上記「国家安全保障政策」を実現するため、福祉・教育や農業・自然再生エネルギー振興やジェンダー平等のための予算を大幅にアップします。

国連の1995年「第4回世界女性会議」や「安全保障理事会決議1325」などでは、平和を実現するためにはジェンダー平等が必要だというジェンダー主流化の考えが浸透しています。家父長制を背景とする誤った「男らしさ、女らしさ」は女性の能力発揮を妨げています。また「男らしさ」の発想は、相手に脅威を与えて優位になつことが相手方の攻撃を抑止するという「抑止力論」を支えています。このジェンダーバイアスを克服することは平和をすすめる大きな力になると思います。

そして、(四谷姉妹が9条大使になって)日本国憲法9条を世界に発信して、世界全体の平和を

図る提案もします。

こうした提案には参加者から拍手が起こるほど好評で、ただ反対するだけでなく「対案」を出すことで展望を持てるのだと思います。

なお、この「対案」は国連が提唱している「人間の安全保障」の考えにも通底しています。

3 「四谷姉妹」誕生物語

弁護士の私たちがなぜ漫才をするのか、これにも深〜い理由があります。

四谷姉妹結成は、2018年暮れに「東京法律事務所9条の会」主催のイベントでネタ披露したのが始まりです。2015年に憲法違反の安保法制が強行採決され次は明文改憲かという危機感を持ち、私たち弁護士は、憲法カフェや憲法紙芝居など、より広い人たちに憲法を理解してもらう活動を行っていました。

こうした活動は憲法を多くの人に知ってもらうことに役立ちましたが、改憲についての世論調査ではおおむね、3〜4割の人たちが「わからない」「回答しない」という状況はあまり変わりませんでした。この「わからない」と回答している人たちに、憲法のすばらしさを伝えられないかと考えていました。

当時、お笑い芸人の「阿佐ヶ谷姉妹」さんが人気で、私たち2人ともオカッパ頭で眼鏡をかけてお笑い好き。「私たちって似てるよね」、「憲法漫才やらない?」という会話から「四谷姉妹」誕生まではトントン拍子ですすみました。

ただ、「下積み芸人」同様、当初は全く注目されず、「笑い」をとることの難しさを感じていました。

4 ユーチューブで転機が

2020年はコロナ禍で、東京法律事務所9条の会の集会在オンライン開催となりました。その前座として四谷姉妹のネタを動画にとって、東京法律事務所HPにアップしました。その動画が当時1,000回再生（現在は8,600回以上再生）されたのに気をよくして、日弁連の憲法動画コンテストにも応募するなど活動をほそほそと継続していました。コンテスト結果は予想に反して落選でしたが、この動画が新聞記者の目にとまりました。

憲法記念日特集に登場してほしいというオファーを受け、ピンクのドレスで国会議事堂前まで行って撮影に臨みました。これが昨年(2022年)憲法記念日の翌日に東京新聞1面に登場することになりました。

その後、西日本新聞やファッション雑誌「SPUR」にも登場、昨年11月には熊本県民テレビにオンラインで生出演しました。

そして、各地の9条の会や母親大会、労働組合、生協などからのオファーが今も絶えません。今年1月に公演先で知り合った作曲家の協力を得て、今年の憲法日には『けんぼうの詩』をリリースしました。この動画は現時点で約2,500回再生されており、SNSの影響を実感しています。

5 公演の内容は

漫才では、岸が食いしん坊で難しい言葉を食べ物と聞き間違ふ姉役で「ボケ」担当、青龍がしっかり者の妹で「ツッコミ」担当です。

「立憲主義」を姉が「リケンシュウマイ?」、 「敵基地攻撃能力」を「テッカドンとチキンのコラーゲン鍋」と聞き間違えると、妹が「食べ物じゃないです!」と突っ込んできちんと説明する、と

いうスタイル。漫才は、昨年6月1日読売新聞夕刊『辛酸なめ子のじわじわ時事ワード』で紹介されました。「弁護士のスリッパな雰囲気、どこか阿佐ヶ谷姉妹のピュアさと通じている」「強引なボケも上品な口調なので説得力があります」とお墨付きをもらいました!

また、私分厚い六法全書を会場に持ってきて、「六法には1番最初に日本国憲法が書いてあるけど、これは何の役に立つでしょう? ①お昼寝の枕 ②漬物石の代わり ③ダンベルの代わり ④みんなの暮らしと権利を守っている」。(会場から④という掛け声に応じて)「いいえ、①②③④全部ですよ〜、憲法っていろいろ役に立つんですよ」とボケたり、「ご当地自慢(公演するご当地で話題になっていることや特産品など)」を事前に調べ、「軍事費11兆円は、(茨城の)干し芋の年間生産量200億円の550年分よ!」「どひゃー」などと笑いをとっています。

漫才ネタは10分程度で、その他「四谷姉妹誕生秘話」「ジェンダーコント」などを披露したあと、「安保3文書って?」「ジェンダーと平和」などのテーマでお話します。

6 楽しんで、巻き込んで

最近、より幅広い層へのアプローチの仕方を学びたいというテーマでの講演依頼もあります。

私たちには、なんとか憲法を守りたいという必死の思いもありますが、それでは息切れしてしまいます。また、受け手側にとっては「重い」「押しつけがましい」と感じることもあるでしょう。

そもそも憲法と言えば『3K=固い、関係ない、興味ない』が一般的な印象でしょう。これをどう乗り越えていくかは大きな課題です。

そこで、思いついたのは、自分たちが好きなことを楽しんでやってみよう、ということでした。

(ただ実際にやってみると、笑いをとるのはとても難しくたいへんでした)。

また、ネタ動画を取るときに東京法律事務所の若手弁護士・事務局にも声かけして、意見を聞いてネタを書き直しました。『けんぼうの詩』のMV動画を作成したときは、「恋するフォーチュンクッキー」を参考にして(?)振付を考え、若手のみなさんにバックダンサーをお願いするなど、周りを巻き込んで楽しくやることにしています(四谷姉妹で検索してユーチューブで見てください!)

私たちが楽しそうにしていることで、それを見

る人も楽しい気持ちになったり、一緒にやってもいいかなと思ってもらえたりするのではないのでしょうか。

運動を広げるには訴える内容が「正しい」「共感が得られる」ことも必要ですが、まずは「興味を持ってもらう」「知ってもらう」ことがなければ、正しさも伝わらないでしょう。

岸田大軍拡路線をストップさせるため、私たちの柔軟な発想力や発信力が求められています。

(きし まつえ・弁護士)

(せいりゅう みわこ・弁護士)